

Sun Server X4-2L

Oracle VM インストールガイド

Copyright © 2013 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手	5
このドキュメントについて	5
関連ドキュメント	5
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	6
1. Oracle VM のインストールについて	7
Oracle VM インストールのタスクマップ	7
サポートされる Oracle VM ソフトウェア	8
コンソール表示オプションの選択	9
コンソール表示オプション	9
▼ ローカルコンソールを設定する	9
▼ リモートコンソールを設定する	10
ブートメディアオプションの選択	10
ブートメディアオプションの要件	10
▼ ローカルブートメディアオプションを設定する	11
▼ リモートブートメディアオプションを設定する	11
インストール先オプションの選択	12
インストール先のオプション	12
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する	13
▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する	13
Oracle VM のインストールオプション	13
サーバー 1 台構成のインストール方法	14
Oracle VM の補助付きインストール	14
Oracle VM の手動インストール	15
Oracle System Assistant の概要	15
Oracle System Assistant のタスク	16
「Get Updates」および「Install OS」タスク	16
Oracle System Assistant の取得	16
2. Oracle VM をインストールするための準備	19
▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する	19
▼ BIOS で VT-d および SR-IOV を無効にする	21
RAID の構成	23
3. Oracle VM のインストール	25
準備作業	25
Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール	26
▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle VM をインストールする	26

メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール	29
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール	29
Oracle VM のインストール後のタスク	33
Oracle VM ソフトウェアの更新	33
Oracle VM リソースの管理	33
4. ネットワークインタフェースの構成	35
NIC コネクタ	35
索引	37

このドキュメントの使用方法

このインストールガイドでは、Oracle VM Server ソフトウェアのインストール手順と、Oracle の Sun Server X4-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- [5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」](#)
- [5 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [6 ページの「フィードバック」](#)
- [6 ページの「サポートとアクセシビリティ」](#)

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – これは、工場出荷時にインストールされる Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>
- 物理メディアの申請

詳細については、『[設置](#)』、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation

ドキュメント	リンク
Sun Server X4-2L	http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs
Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド	http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは、次の場所ですenderことができます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com
	聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

1

・・・ 第 1 章

Oracle VM のインストールについて

このセクションでは、サーバーに Oracle VM をインストールする手順の概要を示します。

説明	リンク
Oracle VM ソフトウェアのインストール手順について学びます。	7 ページの「Oracle VM インストールのタスクマップ」
サポートされている Oracle VM ソフトウェアのバージョンについて学びます。	8 ページの「サポートされる Oracle VM ソフトウェア」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	9 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	10 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	12 ページの「インストール先オプションの選択」
Oracle VM のインストールオプションについて学びます。	13 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
Oracle System Assistant について学習します。	15 ページの「Oracle System Assistant の概要」

関連情報

- ・ [25 ページの「Oracle VM のインストール」](#)

Oracle VM インストールのタスクマップ

次の表では、Oracle VM ソフトウェアのインストール手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">・ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」・ 『設置』、「サーバーの配線」・ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」
2.	静的 IP アドレスを使用して、Oracle VM Manager をインストール可能な 2 番目のシステムを設定します。このシステムには、次のいずれかのオペレーティングシステムがインストールされている必要があります。 <ul style="list-style-type: none">・ Oracle Linux 5.5、64 ビット以降のリリース・ Red Hat Enterprise Linux Release 6、64 ビット以降のリリース	Oracle VM リリースノート (リリース 3.2.1) 、 Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.2.1) 、および Oracle VM ユーザーガイド (リリース 3.2.1) (http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html)

手順	説明	リンク
3.	Oracle VM インストールメディアおよび Oracle VM ドキュメントを入手します。Oracle VM ドキュメントは、以降の手順 7 で説明するインストール手順とともに使用するようしてください。	<ul style="list-style-type: none"> Oracle VM インストールプログラムの ISO イメージは、次の Web サイトからダウンロードできます。http://edelivery.oracle.com/oraclevm Oracle VM ISO イメージを CD からインストールする場合は、Oracle VM ISO ファイルをブート可能 CD に焼いてください。 Oracle VM ドキュメントは、次でダウンロードできます。 http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html
4.	プロダクトノートを確認します。	『Sun Server X4-2L プロダクトノート』(http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs)
5.	インストールの実行に使用するコンソール、メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 9 ページの「コンソール表示オプションの選択」 10 ページの「ブートメディアオプションの選択」 12 ページの「インストール先オプションの選択」
6.	OS の新規インストール時の BIOS 設定を確認します。	19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」
7.	Oracle VM Server、および必要に応じて Oracle VM Manager をインストールします。	Oracle VM Server および Oracle VM Manager のインストール手順については、29 ページの「メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」を参照してください。
8.	インストール後のタスクを適宜実行します。	33 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」

関連情報

- 19 ページの「Oracle VM をインストールするための準備」

サポートされる Oracle VM ソフトウェア

サーバーは、次の Oracle VM ソフトウェアをサポートしています。

VM ソフトウェア	版
Oracle VM	リリース 3.2

注文時に Oracle VM ソフトウェアがインストール済みのサーバーを依頼した場合は、出荷時に Oracle VM 3.2 がインストールされています。Oracle VM ソフトウェアがサーバーにインストール済みだがそれを使用しない場合、ほかのサポートされている任意のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs> にある最新バージョンの『Sun Server X4-2L プロダクトノート』を参照してください。<http://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-2L++Operating+Systems> でも、サポートされているオペレーティングシステムの一覧を確認できます。



注記

Oracle VM がインストール済みの場合、それは、サーバーがレガシー BIOS ブートモードに設定された状態でインストールされたものです。サーバーを UEFI BIOS ブートモードでブートすることにした場合、インストール済みのイメージはアクセス不可能となり、使用できません。Oracle VM ソフトウェアは UEFI BIOS をサポートしません。

関連情報

- [25 ページの「Oracle VM のインストール」](#)

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [9 ページの「コンソール表示オプション」](#)
- [9 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [10 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末

端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。

- ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
 - VGA モニター、キーボード、マウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
 - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
 - b. Oracle ILOM ログインプロンプトで、次を入力します。

```
-> start /HOST/console
```

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。
コマンド行インタフェースまたは Web インタフェースのどちらかを使用して Oracle ILOM にリモートからログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、『設置』「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。
2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
 - b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
 - c. Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。
 - d. 必要に応じて、「Devices」メニューでデバイスのリダイレクト (マウス、キーボードなど) を有効にします。
3. SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
 - a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (**ssh root@hostname**。ここでは、hostname はサーバー SP の DNS 名または IP アドレス)。
 - b. Oracle ILOM にログインします。
 - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。

-> **start /HOST/console**

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされるメディアソースおよび各ソースのセットアップ要件を示します。

- [10 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [11 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」](#)
- [11 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [11 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)

-
- ・ 11 ページの「リモートブートメディアの要件」

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされる OS のローカルブートメディアソースは、CD/DVD-ROM インストールメディアだけです。

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- ・ CD/DVD-ROM インストールメディア
- ・ CD/DVD-ROM ISO インストールイメージ
- ・ 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)

▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Oracle VM ソフトウェアインストールメディアが格納されているストレージデバイスをサーバーに装着する必要があります。

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Oracle VM ソフトウェアインストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーのフロントパネルまたは背面パネルに、Oracle VM ソフトウェアを含む適切なストレージデバイスを接続します。



注記

サーバーの外部 USB ポートの場所については、『設置』の「サーバーの機能とコンポーネント」を参照してください。

▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。

1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。
 - ・ **CD/DVD-ROM** の場合、リモートワークステーション上の組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。

- **CD/DVD-ROM ISO** イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。
 - デバイスドライバフロッピーの **IMG** イメージの場合、IMG イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。
2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。
詳細は、[9 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
 3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します:
 - **CD/DVD-ROM** ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。
 - フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。
 - フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- [12 ページの「インストール先のオプション」](#)
- [13 ページの「ローカルストレージドライブ \(HDD または SSD\) をインストール先として設定する」](#)
- [13 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」](#)

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されている) を除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。



注記

SSD は Oracle Engineered Systems でしかサポートされません。

重要: 内蔵の組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、ブート用またはストレージ用のドライブとしては使用しないでください。

サーバーは、組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを装備した状態で出荷されます。このドライブには、Oracle System Assistant、デバイスドライバ、および Oracle ILOM、BIOS、およびサポートされている IO デバイス用のファームウェアが含まれています。サポートされるすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み取り/書き込み可能な単一パーティションを持つ SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストに **Oracle_SSM** と表示されます。次の操作を実行するときに、このデバイスを上書きしないように注意してください。

- オペレーティングシステムのインストール
- ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合でも、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージを取得し、このイメージを使用して復元処理を実行します。

Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージをダウンロードし、サーバーの Oracle System Assistant フラッシュドライブを復元する手順については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- HDD または SSD が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。HDD または SSD の取り付けおよび電源投入方法の詳細は、『サービス』、「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

1. サーバーに PCIe ホストバスアダプタ (HBA) が正しく取り付けられていることを確認します。PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『サービス』、「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。
2. Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

Oracle VM のインストールオプション

Oracle VM を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントでは、単一サーバーへの Oracle VM インストールについて説明します。次の表に、2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバー上に 1 つのオペレーティングシステムをイン

オプション	説明
単一のサーバー	<p>ストールできます。詳細は、http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager にアクセスしてください</p> <p>次のいずれかの方法を使用して、単一サーバーに Oracle VM をインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカル: Oracle VM のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 リモート: Oracle VM のインストールは、リモートの場所から実行されます。このオプションは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、Oracle VM の手動インストールを実行します。
	<p>注記</p>
	<p>単一のサーバーに Oracle VM をインストールする場合は、Oracle System Assistant を使用するようしてください。</p>

サーバー 1 台構成のインストール方法

Oracle VM Server インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、最適なローカルまたはリモートの Oracle VM インストールを決定してください。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き Oracle VM インストール – Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、 14 ページの「Oracle VM の補助付きインストール」 を参照してください。
リモートからの補助付き Oracle VM インストール – Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、 14 ページの「Oracle VM の補助付きインストール」 を参照してください。
CD/DVD ドライブを使用したローカルでの Oracle VM インストール – サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、 15 ページの「Oracle VM の手動インストール」 を参照してください。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用したリモートからの Oracle VM インストール – Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Oracle VM 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。詳細は、 15 ページの「Oracle VM の手動インストール」 を参照してください。

Oracle VM の補助付きインストール

これは、Oracle VM をサーバーにインストールするための推奨方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。Oracle VM インストールメディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージに提供します。Oracle System Assistant によりインストール手順が案内され、必要に応じて必須のドライバが収集およびインストールされます。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があり、そのサーバーにインストールされている必要があります。

Oracle VM の手動インストール

この方法では、Oracle VM 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。必要なドライバをインストールする必要もあります。サーバー用のドライバは、サーバー内蔵の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (ドライバへのアクセスを可能にするために取り付けが必要) に用意されており、My Oracle Support Web サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージとして、または ISO イメージファイルとして入手することもできます。Oracle VM をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一サーバーシステム管理ツールです。Oracle System Assistant は、Oracle の単一システム管理製品および選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に構成および保守できるようにするツール群を提供します。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルからアクセスすることも、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してリモートからアクセスすることもできます。

ラックへのサーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant を (物理的にサーバーにいる間に) ローカルで使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーが動作すると、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 構成と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、組み込みストレージデバイス (USB フラッシュドライブ) としてサーバー内部に存在し、出荷時にサーバー固有のバージョンのツールおよびドライバを使用して構成されており、オンライン更新を使用して保守が行われます。

Oracle System Assistant の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [16 ページの「Oracle System Assistant のタスク」](#)
- [16 ページの「「Get Updates」および「Install OS」タスク」](#)
- [16 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant のタスク

Oracle System Assistant には、もっとも一般的かつ有用な単一サーバー管理プロビジョニングタスク一式が選択され、まとめられています。

次の情報やタスクは、迅速で便利なサーバーの設定と継続的なサーバー管理を可能にします。

- システムの概要とシステムインベントリ情報
- すべてのコンポーネント (ツール、ドライバ、ファームウェアなど) のオンラインアップデートの取得
- システムファームウェア (BIOS および Oracle ILOM) とホストバスアダプタファームウェアの更新
- RAID、Oracle ILOM、および BIOS 構成
- 補助付き OS インストール
- ネットワーク構成
- 機能と組み込まれたメディア整合性チェックの無効化
- 多言語キーボード
- 実行時環境を使用可能にする Oracle System Assistant シェル端末ウィンドウ
- Oracle Hardware Management Pack へのアクセス (Oracle System Assistant シェルを使用)
- Oracle System Assistant の復旧

「Get Updates」および「Install OS」タスク

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバとほかのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエキスパンダ) を更新する場合は、OS をインストールする前に「Get Updates」タスクを実行するようにしてください。

Oracle System Assistant の OS インストールタスクを実行すると、サポートされている OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバをフェッチします。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant がサーバーでサポートされているため、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。取り付けられている場合、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破壊または上書きされている場合は、My Oracle Support Web サイトから Oracle System Assistant Updater イメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、『設置』「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

関連情報

- Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

・・・第 2 章

Oracle VM をインストールするための準備

このセクションでは、Oracle VM をインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
サーバーの BIOS 設定を確認し、出荷時のデフォルトに設定します。	19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」
BIOS の VT-d および SR-IOV オプションを無効に設定します。	21 ページの「BIOS で VT-d および SR-IOV を無効にする」
サーバーで RAID を構成します。	23 ページの「RAID の構成」

関連情報

- [26 ページの「Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」](#)
- [29 ページの「メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」](#)
- [29 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」](#)

▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する



注記

サーバーを新しく設置し、オペレーティングシステムをはじめてインストールした場合、通常 BIOS はデフォルトに設定されていて、このタスクを実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、最適なデフォルトに設定できるほか、必要に応じて BIOS 設定を表示し編集できます。BIOS 設定ユーティリティ (F2) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 を使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 を使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 を使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 で指定した常時ブートデバイスが有効になります。

次の要件が満たされていることを確認します。

- ・ サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- ・ HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。手順については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- ・ サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、9 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには:

- ・ ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- ・ **Oracle ILOM Web** インタフェースから「Host Management」>「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- ・ **Oracle ILOM CLI** で「`reset /system`」と入力します

BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。

- a. F9 を押すと、出荷時のデフォルト設定が自動的にロードされます。

メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関する値を編集します。

- a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。

- b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します。

- ・ プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します
- ・ マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します
- ・ Enter を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します

5. ブート設定にアクセスするには、「Boot」メニューを選択します。

「Boot Settings」メニューが表示されます。

6. 「Boot Settings」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、Enter キーを押します。
「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
7. 「Boot Device Priority」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter を押します。
 - b. 「Options」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、Enter を押します。



注記

変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

「Boot Device Priority」リストおよび「Options」メニューに表示されるデバイス文字列の形式は、*デバイスタイプ、スロットインジケータ* および *製品 ID 文字列* です。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 を押します。
または、「Save & Exit」メニューから「**Save and Reset**」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「**OK**」を選択して、Enter を押します。



注記

Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にある「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

▼ BIOS で VT-d および SR-IOV を無効にする

Oracle VM を使用する前に、BIOS の Virtualization Technology for Directed I/O (VT-d) を無効にする必要があります。これが必要になるのは、入出力メモリー管理ユニット (I/O MMU) が Oracle VM 3.2 でサポートされていないからです。Oracle VM の使用前には、BIOS の Single Root I/O Virtualization (SR-IOV) も無効にする必要があります。

BIOS で VT-d と SR-IOV の設定を無効にするには、次の手順を実行します。

1. サーバーをリセットするか、電源を入れます。
たとえば、サーバーをリセットするには:
 - ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web** インタフェースから「Host Management」>「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - **Oracle ILOM CLI** で「`reset /System`」と入力します

BIOS 画面が表示されます。

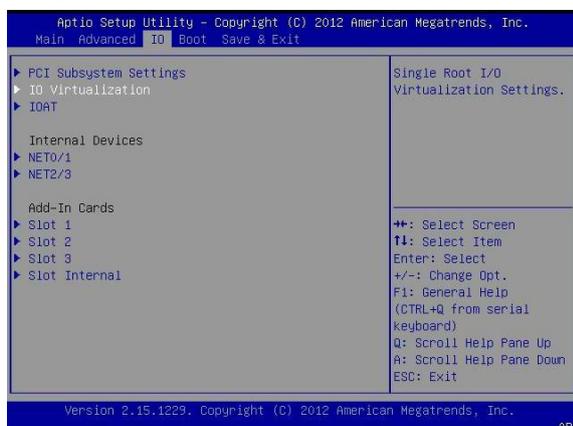


2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

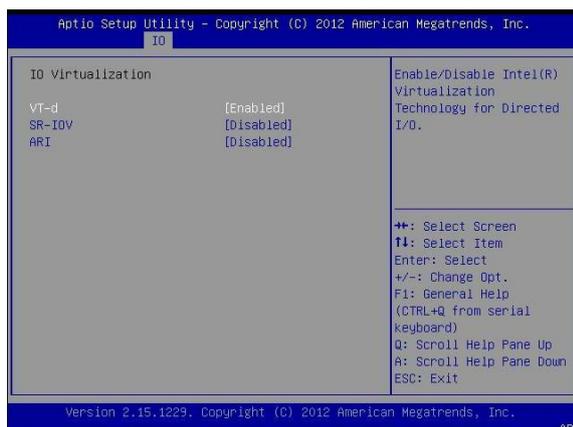
3. 右矢印キーを使用して「IO」メニューに移動します。

「IO」メニュー画面が表示されます。



4. 上下の矢印キーを使用して「IO Virtualization」メニューオプションに移動し、Enter を押します。

「IO Virtualization」メニューが表示されます。



5. 上下の矢印キーを使用して「VT-d」メニューオプションに移動し、Enter を押します。
「VT-d」ダイアログボックスが表示されます。
6. VT-d のダイアログボックスで、上下の矢印キーを使って「Disabled」を選択し、Enter キーを押します。
これで、VT-d オプションが無効になりました。

7. 上下の矢印キーを使用して「SR-IOV」メニューオプションに移動し、Enter を押します。「SR-IOV」ダイアログボックスが表示されます。
8. 「SR-IOV」ダイアログボックスで、上下の矢印キーを使用して「**Disabled**」を選択し、Enter を押します。
これで、SR-IOV オプションが無効になりました。
9. ESC キーを押して「IO」メニューのトップレベルに戻ってから、変更を保存して BIOS を終了します。

RAID の構成

RAID (Redundant Array of Independent Disks) を使用する場合は、Oracle VM をインストールする前にサーバーのストレージドライブで RAID を構成しておく必要があります。RAID を構成する手順については、『*設置*』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。

関連情報

- *Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

3

Oracle VM のインストール

このセクションでは、Oracle VM をサーバーにインストールする手順を説明します。

説明	リンク
プリインストール要件。	25 ページの「準備作業」
Oracle System Assistant を使用した Oracle VM のインストール。	26 ページの「Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」
メディアを使用した単一サーバーへの Oracle VM ソフトウェアのインストール。	29 ページの「メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」
インストール後の作業。	33 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- RAID をサーバーのストレージドライブ上で構成する場合は、Oracle VM をインストールする前にそれを行う必要があります。RAID を構成する手順については、『設置』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。



注記

サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が搭載されている場合は、Oracle VM をインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されている必要があります。このオプションおよび設定方法の詳細については、[9 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。
- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよび設定方法の詳細については、[10 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

- ・ インストール先オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよび設定方法の詳細については、[12 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。
- ・ BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を検証する方法、および必要な場合に BIOS を設定する方法については、[19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」](#)を参照してください。
- ・ ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、使用可能な Oracle VM インストールメディアを、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- ・ リモートインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに Oracle VM インストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- ・ Oracle VM イメージを使用している場合は、Oracle ILOM リモートコンソールシステムから ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- ・ 静的 IP アドレスを保持する 2 つのシステムが設定されていることを確認します。
 - ・ 一方のシステムには、Oracle VM Server をインストールします。
 - ・ もう一方のシステムは Oracle VM Manager 用で、Oracle Linux (Release 5.5、64 ビット以降のリリース) または Red Hat Enterprise Linux (Release 6、64 ビット以降のリリース) をインストールします。
- ・ 追加のプリインストールタスクや要件については、*Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.2.1)* (http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html) の、X86 での Oracle VM Server のインストールに関するセクションを参照してください。
- ・ このセクションに記載されている指示と併せて使用するために、Oracle VM ドキュメントライブラリを入手します。Oracle VM 3.2.1 のドキュメントライブラリは、次で入手できます: http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html。

Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール

Oracle System Assistant の OS インストールタスクは、Oracle VM をサーバーにインストールするための推奨方法です。

- ・ [26 ページの「Oracle System Assistant を使用して Oracle VM をインストールする」](#)

▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle VM をインストールする

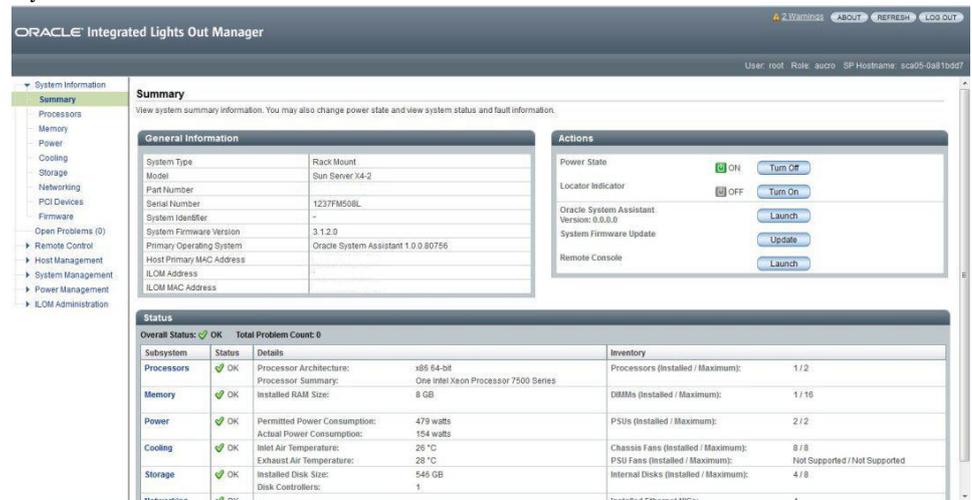
この手順を始める前に、次を実行します。

- ・ [19 ページの「Oracle VM をインストールするための準備」](#)の手順を実行します。
 - ・ ブートドライブ (Oracle VM のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Oracle VM をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバーで RAID を構成する方法については、『[設置](#)』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。
1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

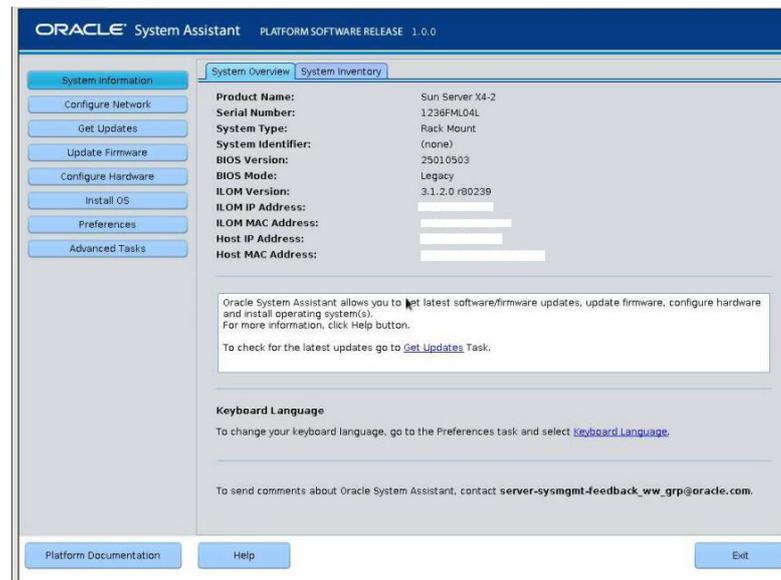
- ディストリビューション CD/DVD の場合。Oracle VM メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたは外付け CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- ISO イメージの場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアの設定方法に関する追加情報については、10 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2. Oracle ILOM インタフェースから直接 Oracle System Assistant を起動する (推奨) 場合は、次の手順を実行します。それ以外の場合は、27 ページのステップ 3 に進みます。
 - a. Oracle ILOM Web インタフェースの「Actions」パネル (下を参照) で Oracle System Assistant の「Launch」ボタンをクリックします。



「Oracle System Assistant Overview」画面が表示されます。



- b. 28 ページのステップ 4 に進みます。
3. Oracle ILOM リモートコンソールと BIOS を使って Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。

-
- a. **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Summary」>「Launch Remote Console」をクリックします。

「Oracle ILOM Remote Console」画面が表示されます。

- b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

例:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で「`reset /System`」と入力します

Oracle ILOM リモートコンソールに BIOS 画面が表示されます。



注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

-
- c. F9 キーを押します。

Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。

4. 最新のソフトウェアリリースパッケージに更新するには、Oracle System Assistant の「Get Updates」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーに最新のソフトウェアリリースパッケージが確実にインストールされます。



注記

Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

-
5. サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。

6. Oracle VM をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Install Operating System」画面が表示されます。
7. 「Supported OS」ドロップダウンリストから OS を選択します。
8. 画面の「Current BIOS mode」部分でレガシー BIOS を選択します。
Oracle VM でサポートされるのはレガシー BIOS だけなので、UEFI を選択しないでください。
9. 画面の「Select your install media location」セクションで、インストールメディアの場所を選択します。
これは OS 配布メディアの場所です。



注記

Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 画面の「Select boot disk」部分で、Oracle VM のインストール先となるデバイスを選択します。
11. 「View Installation Options」をクリックします。
「Installation Options」ダイアログが表示されます。
12. 「Installation Options」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。



注記

「Oracle VM」および「Drivers」オプションは必須であり、選択を解除することはできません。

13. 「Install OS」画面の最下部にある「Install OS」ボタンをクリックします。
14. ブートデバイスの選択を確認するため、「Yes」をクリックします。
ブートデバイスを変更するには、「No」をクリックして別のデバイスを選択します。
15. プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール

このセクションでは、Oracle VM 3.2 for x86 (64 ビット) ソフトウェアのインストール方法について説明します。

- [29 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」](#)
- [33 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」](#)

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール

次の手順では、Oracle VM のインストール手順について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle VM インストールソフトウェアをブートすることを前提にしています。

- Oracle VM 3.2 CD または DVD メディアセット (内蔵または外付けの CD または DVD)
- Oracle VM 3.2 ISO ソフトウェアイメージ (ネットワークリポジトリ)



注記

Oracle VM ISO イメージは、リモートインストールまたはインストール CD または DVD の作成に使用できます。

Oracle VM をインストールするには、次の手順を参照してください。

- [30 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM Server のインストール」](#)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM Server のインストール

1. Oracle VM Server インストールメディアがブート可能であることを確認します。
 - **ディストリビューション CD/DVD の場合。**ローカルまたはリモートの CD/DVD-ROM ドライブに Oracle VM Server メディアのブートディスクを挿入します。
 - **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能で、ブートディスクイメージ (番号 1 の付いた CD または DVD) が Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションで選択されている (「Devices」メニュー > 「CD-ROM Image」) ことを確認します。
インストールメディアの設定方法に関する追加情報については、[10 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。
たとえば、サーバーをリセットするには:
 - **ローカルサーバーから、**サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェースから、**「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - **Oracle ILOM CLI で**「`reset /system`」と入力します

BIOS 画面が表示されます。



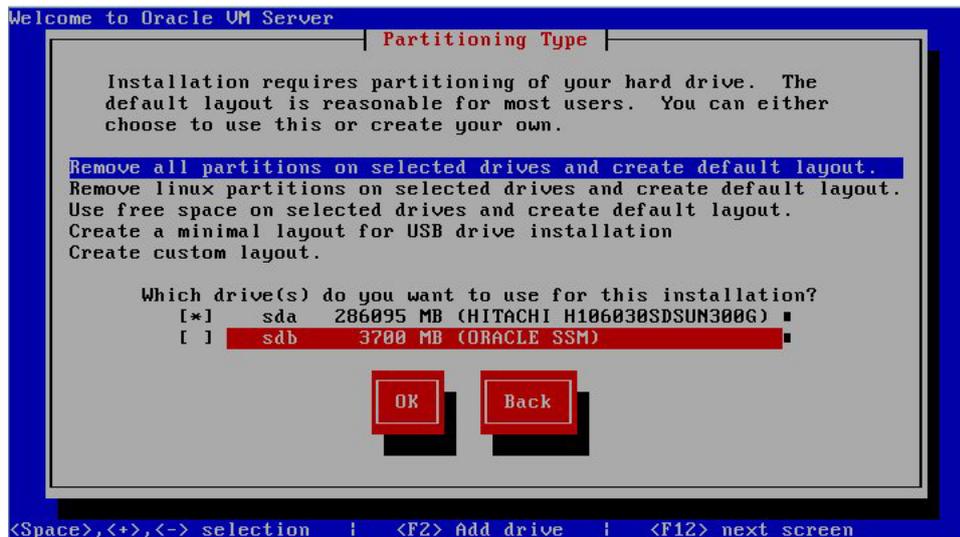
注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Oracle VM Server のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
4. 「Please Select Boot Device」メニューで、ブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。
「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。
数秒後、Oracle VM Server のスプラッシュ画面が表示されます。



5. Enter キーを押してインストールを開始します。
キーを押さなければ、1 分後にインストーラが自動的に起動されます。インストーラはテキストモードでのみ使用できます。
6. Oracle VM Server や Oracle VM Agent をインストールするには、*Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.2.1)* (http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html) の、X86 での Oracle VM Server のインストールに関するセクションを参照し、画面上のプロンプトに従ってください。
Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.2.1) は、Oracle VM をインストールするための詳細な手順を提供します。
7. 画面上のプロンプトに従っていくと、「Partitioning Type」画面が表示されます。



注記

次の手順は、Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.2.1) (http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html) で説明されていますが、ここに含めました。Oracle VM のインストール先となるドライブを選択する際に注意を払う必要があるからです。

8. 「Partitioning Type」画面で次を行います。

- a. 次のいずれかのパーティションレイアウトを選択します。
 - すべてのパーティションを削除し、デフォルトレイアウトを作成します。
 - 選択されたドライブ上のすべての Linux パーティションを削除し、デフォルトレイアウトを作成します。
 - 選択されたドライブ上の空き領域を使用し、デフォルトレイアウトを作成します。
 - USB ドライブインストール用の最小レイアウトを作成します。
 - カスタムレイアウトを作成します。

デフォルトレイアウトはほとんどのユーザーの要件を満たします。

- b. インストールで使用するドライブを選択します。



注意

上に示す「Partitioning Type」画面で、**Oracle SSM** ドライブとは Oracle System Assistant USB フラッシュドライブです。このドライブを表示するために、画面下部までスクロールすることが必要な場合があります。**Oracle SSM** ドライブは、決してソフトウェアインストールドライブとして選択しないでください。Oracle VM を **Oracle SSM** ドライブにインストールすると、Oracle System Assistant ソフトウェアが上書きされ、Oracle System Assistant の復元が必要になります。Oracle System Assistant の復元手順については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

- c. 「OK」をクリックしてインストールを続行します。

9. インストールを完了させるには、*Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.2.1)* (http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html) を参照し直し、その手順に従います。



注記

Oracle VM のインストールには 2 つのパスワードが必要です。1 つは Oracle VM Server の root アカウント用、もう 1 つは Oracle VM エージェント用のパスワードです。

10. Oracle VM Server と Oracle VM Agent のインストールが完了したら、次のいずれかを行います。

- Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が構成されていない場合は、[33 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」](#)に進む前にそれをインストールしておく必要があります。

Oracle VM Manager のインストール手順については、*Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.2.1)* (http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html) を参照してください。

- Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager がすでに構成されている場合は、[33 ページの「Oracle VM のインストール後のタスク」](#)に進みます。

Oracle VM のインストール後のタスク

Oracle VM ソフトウェアのインストールが完了したら、次に示すインストール後タスクを確認し、使用しているシステムで該当するタスクを必要に応じて実行します。

- [33 ページの「Oracle VM ソフトウェアの更新」](#)
- [33 ページの「Oracle VM リソースの管理」](#)

Oracle VM ソフトウェアの更新

Oracle VM のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要に応じて、最新のアップデートを使用して Oracle VM ソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、この Web サイトを参照してください。

<http://edelivery.oracle.com/oraclevm>

Oracle VM リソースの管理

Oracle VM リソースを構成、アクセス、および管理する方法については、次にある Oracle VM 3.2.1 ドキュメントライブラリを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/index.html

4

・・・第 4 章

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、次の情報について説明します。

- ・ [35 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

サーバーのネットワークインタフェースカードのコネクタには、次のように物理的にラベルが付けられています。

表4.1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
net0	第 1 インタフェース (ixgbe 0)
net1	第 2 インタフェース (ixgbe 1)
net2	第 3 インタフェース (ixgbe 2)
net3	第 4 インタフェース (ixgbe 3)



注記

単一プロセッサシステムでは、NET 2 および NET 3 は機能しません。

索引

シンボル

- Oracle System Assistant
 - USB フラッシュドライブの制限, 13
 - アプリケーションの OS インストールタスク
 - Oracle VM, 16
 - 概要, 15
 - 組み込みストレージデバイス, 15
 - タスク
 - Oracle VM, 16
 - 入手, 16
 - Oracle VM
 - ISO イメージ, 8, 30
 - VM Server のインストール手順, 30
 - インストール後のタスク, 33, 33
 - ソフトウェアの更新, 33
 - ネットワークインタフェースの構成, 35
 - ブートディスクイメージ, 30
 - リソースの管理, 33
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したメディアのインストール, 29
 - Oracle VM Server
 - ISO イメージ, 30
 - Oracle VM インストールの概要, 7
 - Oracle VM ソフトウェア
 - 更新のダウンロード, 33
 - サポートされているバージョン, 8
 - Oracle VM のインストール
 - 概要, 7
 - タスクマップ, 7
- ## あ
- インストール
 - Oracle System Assistant の使用
 - Oracle VM, 26
 - メディアを使用した単一システムで使用
 - Oracle VM, 29
 - ローカルメディアまたはリモートメディアの使用, 30
 - Oracle VM, 29
 - インストールオプション
 - Oracle VM, 13
 - インストール後のタスク
 - Oracle VM, 33
 - インストール先
 - オプション, 12
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 13
 - ローカルストレージドライブ, 13
 - インストール先オプション
 - 選択, 12
 - インストール方法
 - Oracle System Assistant の使用
 - Oracle VM, 14

- 手動
 - Oracle VM, 15
- 単一サーバー
 - Oracle VM, 14
- ブートメディアのオプション, 10

か

- 構成
 - RAID, 23
 - ネットワークインタフェースカード
 - Oracle VM, 35
- コンソール表示
 - オプション, 9
- コンソール表示オプション
 - 選択, 9

さ

- サポートされているバージョン
 - Oracle VM ソフトウェア, 8
- ソフトウェアの更新
 - Oracle VM, 33

た

- タスクマップ
 - Oracle VM のインストール, 7

な

- ネットワークインタフェースカード
 - 構成
 - Oracle VM, 35
 - ラベル付けとタイプ
 - Oracle VM, 35
- ネットワークインタフェース構成, 35

は

- ブートディスクイメージ
 - Oracle VM, 30
- ブートメディアオプション
 - 選択, 10
- ブートメディアのインストール, 10
- プロダクトノート
 - Web サイト, 8

ら

- リモートコンソール
 - 設定, 10
- リモートブートメディア
 - 設定
 - Oracle VM ソフトウェア, 11
 - 要件, 11
- ローカルコンソール
 - 設定, 9
- ローカルブートメディア
 - 設定, 11
 - 要件, 11
